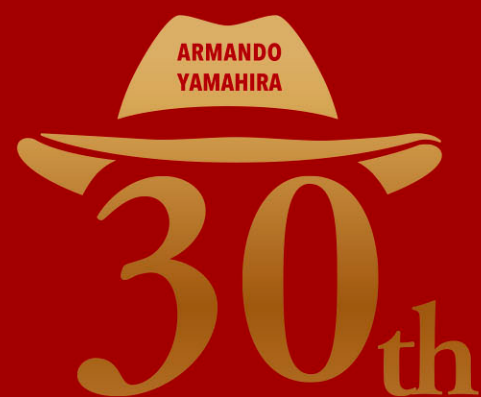




ARMANDO
YAMAHIRA

あるまんど山平
with Belle Vientos
30周年コンサート

手と手をつないで30年。ありがとうの大きな輪。



2019 12/8 SUN

開場 13:30 開演 14:00～ 会場 児童会館けやきシアター

《主催》 あるまんど山平 with Bell Vientos30周年コンサート実行委員会

《後援》 秋田県教育委員会・秋田市・ABS秋田放送・秋田魁新報社・NPO法人 MOC・大仙市 池田家顕彰会(旧池田氏庭園)・北秋田市 伊勢堂岱遺跡・ハーブワールド AKITA・NPO法人あきたパートナーシップ(遊学舎)・あきた福祉共生会・赤倉農園・田沢湖自然ファーム・NPO法人秋田パドラーズ

お問い合わせ あるまんど山平 with Bell Vientos30周年コンサート実行委員会 Tel 018-827-3766

ご挨拶



あるまんど山平 with BellVientos30周年コンサート実行委員会

実行委員長 石岡 三佳子

昭和の終わり、あるまんど山平は東京の会社勤めを辞め、秋田に帰って音楽活動を始めました。“美しい風”という名のバンドを組んで30年。今年、時代も平成から令和へと変わりました。

なぜ彼の音楽を聴くと、心に幸せが静かに満ちてくるのでしょうか。

私は70年代の東京で生まれ、近郊の新しい街で育ちました。人工物に囲まれた都会で、心はいつも“ふるさと”の風景を探していました。母も東京生まれ。でも、祖母は明治に秋田で生まれた人でした。上京し家庭を持つも、昭和の初めに戦争があり、空襲で家は焼けました。幼かった母に祖母はよく語ったそうです。

「秋田は水が綺麗で、お米も野菜も美味しいの」。

東京に珍しく雪が降ると、北国で覚えた可愛い藁の雪ぐつを編んでくれたそうです。母も歳を重ねて望郷の想いが募り、数年前、私たちは初めて秋田を旅しました。そこで、あるまんど山平とベルヴィエントスの演奏を聴いたのです。疲れた心を慰める美しく優しい音楽でした。

古くから人々の間で奏でられ、歌い親しまれてきた伝承音楽。それがフォルクローレです。あるまんど山平は秋田の自然と歴史を、新しいフォルクローレにして表現してきました。ブナの森で彼が歌うと、鳥が囀ります。さやさやと葉擦れの音。せせらぎの音。山の短い夏に咲き匂う花々。早く訪れる秋に紅葉で彩られる渓谷。朝霧の林。息づく野生の動物たち。里に広がる田に映る空。金色の稲穂の波。清らかな湧き水。碧く澄む湖。豊穡の海。縄文の遺跡の丘。語り継がれた伝説。祭りの夜の灯。踊り。花火。

あるまんど山平の繊細な感性によって紡がれた音楽の、その旋律と和音には、遠い記憶を呼び覚ますような懐かしさがあります。彼は秋田が生んだ天才です。

さあ、今日は一緒に、美しい風に吹かれましょう。



あるまんど山平

30年にわたる“秋田発信”の音楽活動

『ブナの森コンサート』

森吉、白神、鳥海、田沢湖高原など秋田県内のブナの森を会場に“自然と音楽”をテーマに10年以上にわたり続けているコンサート。

『遺跡deコンサート』

大湯ストーンサークルや伊勢堂岱遺跡などの遺跡でのコンサート「縄文組曲：花紅」

『秋田県の伝説・民話の発信』

八郎太郎、辰子の伝説をテーマにした「三湖伝説」「北限の椿伝説」

『大いなる自然と感動のシンフォニー』

弘田の柵でのコンサート「無上の庭園」



▲ブナの森コンサートの様子



▲遺跡deコンサートの新聞記事

地域の人々とのつながり

『地域への応援、教育現場への携わり』

「ひまわりプロジェクト」・「小中高校の芸術鑑賞の時間」等

『音楽でできる福祉への関わり』

「小又の里」・「陽光苑」・「栗田用語学校」など50か所以上の福祉施設でボランティア演奏 等

『地域イベントへの参加』

「八郎まつり」・「大曲花火」・「西木・初恋の手紙コンテスト」・「矢島やさい王国20周年祭」等



▲福島県立女子医大での授業風景



▲矢島小学校とコラボした「ひまわりプロジェクト」の新聞記事

東日本大震災からの復興応援

福島市、浪江町、南相馬市、気仙沼市、陸前高田市、大船渡市、大槌町等での支援コンサート

秋田県内における震災支援活動 -Walk On!-等チャリティイベントへの参加

ロサンゼルスでの支援コンサート



▲ロサンゼルスでの支援コンサート
(2011年7月)



あるまんど山平 with Belle Vientos

奈良沙冬子:ピアノ・シンセサイザー／千葉周太:ドラムス・パーカッション
セイザン青山:ケーナ／ロンダ沼宮内:サンボーニャ／
佐々木ひとみ:フルート／安藤ケイスケ:パーカッション／井上優花:ギター／
宮崎 華帆:チャランゴ／相馬こころ:ケーナ／佐藤花音:ケーナ …他



1989年、リーダーのあるまんど山平を中心に結成される。秋田市を中心に活動。
バンド名は「Belle」＝美しい「Vientos」＝風の造語である。東北の自然や風土に根差した音楽を発信し続けている。ケーナ、サンボーニャ、ガイタ、ティンホイッスル、チャランゴ、ブズーキなどのアンデスやケルトの楽器を使い、様々な形で残る伝説や行事を音楽によってあらし、東北発のサウンドを目指している。秋田の自然や伝説をテーマにしたオリジナル曲も多い。

絶滅したとされていたものの近年70年ぶりに発見された田沢湖の固有種である“クニマス”をテーマにした作曲や、秋田に伝わる八郎太郎・辰子の「三湖伝説」の壮大な組曲、北東北ルーツと言える“縄文”の歌(遺跡、ストーンサークルetc…)。“自然と音楽”をテーマに10年以上にわたり“ブナの森コンサート”を続けている。



ブルース・ヒューバナー(友情出演)

尺 八〈横浜市〉

1960年米国カリフォルニア州サンタモニカ生まれ。外国人として初めて、東京芸術大学邦楽科(尺八専攻)修士課程修了。故人岡国山山口五郎に師事。ジャズ・ワールド・ミュージック・グループ「カンテラ」を結成。箏奏者のカーティス・バターソンと共に日本全国でツアーも行っている。教育にも熱心で、2013年まで福島県立医科大学等で音楽講師を勤めた。その傍ら東日本大震災後は被災地を回って、精力的にコンサートを重ねている。あるまんど山平との交流が音楽以外にも多岐にわたり、コンサートで何度も来秋している。



ひらやま よりこ

アルパ〈八幡平市〉

盛岡市生まれ。八幡平市在住。東京音楽大学音楽学部ピアノ科卒業。研究科修了。1985年より2年間、青年海外協力隊員としてホンデュラス(中米)の市立音楽院で教鞭をとる。その後ブラグアイに再派遣。3年8ヶ月の赴任中にアルパをエンリケ サマニエゴに師事。以来、南米民族音楽に傾倒する。帰国後再びアルゼンチンに留学、民族音楽及びタンゴをイルダ エルダに師事。ケーナ奏者ラウル オラルテのユニットでブエノスアイレス中心に演奏活動を行う。現在は八幡平市松尾を拠点にソロのアルパ奏者として活動中。



ウォレス

バグパイプ〈水沢市〉

2006年からハイランド・バグパイプを独学で始める。日本ではあまり馴染みがなく、かつ演奏上高い技術が必要とするこのハイランド・バグパイプをマスターする。他に、同様の楽器であるイーリアン・パイプやガイタの奏法も習熟している。竹原ピストル、タテタカコ、踊ろうマチルダなどのオープニング・アクトを務めるなど、岩手県を中心にイベント等でも活躍している。基本的にはスコットランドやアイルランドの民謡がレパートリーを占めるが、日本の歌などさまざまな楽曲に挑戦して高い評価を得ている。岩手県水沢市在住。



近野 淳一

ボーカル&ギター〈秋田市〉

愛する地元秋田県に住みながら日本全国で活動するロックバンド鶴(からす)のボーカル&ギター。2013年から近野淳一名義でアコースティックギター一本の弾き語り活動を本格的にスタート。全国規模でカフェ、バー、お祭り、宴会、山、遺跡の前、民家の居間と様々なシチュエーションの中経験を積み、「バンドマンがよくやる片手間な弾き語り」は絶対にしない、しかしバンドマンだからこそ生まれる勢いと発想で弾き語りの概念を変えることを胸に常に進化し続けている。



栗林 聡子

ボーカル&ピアノ〈美郷町〉

現在仕事と子育てのかたわら、ピアノ弾き語りのシンガーソングライターとして活動中。4歳の頃からピアノを始め、小学生の頃から作詞作曲活動を開始。大学時代はクラシックも学ぶなど、これまでに音楽の基礎をしっかりと学んできた。現在、県内を中心としてライブやイベントに数多く出場。唄もピアノも非常に高い評価を受けている。県内外のプロアマチュアとの様々なコラボもしており、飽きさせない、そして常に新しい分野へも挑戦している。現在までオリジナルの曲のアルバムを3枚リリースしており、いづれも好評を得ている。秋田県美郷町出身、在住。



福司 存成

トランペット〈藤里町〉

15歳よりトランペットを始める。トランペットを佐藤邦彦氏に師事。海上自衛隊音楽隊にて西日本を中心に音楽隊員として吹奏楽による演奏活動を行い、退職後は秋田県内外に於いてソロ、ビッグバンド、ブラスバンド、オーケストラなどで活動。Bell Vientosとは2016年、伊勢堂岱遺跡開業記念コンサートで共演。2017年に初のソロリサイタルを開催。また2018年には秋田ブリティッシュブラスバンドの中心的メンバーとしても活動、NHK「うたコン」などに出演。ソリストとしては第26回日本クラシック音楽コンクール第5位(最高位)。秋田県藤里町在住。



村上 紗由里(特別ベスト)

ボーカル〈東京都〉

千葉県に生まれる。5才でピアノを始めて音楽に触れる。2016年に日本のフォーク・ミュージックの黎明期を創設した伝説的なレーベル＝ベルウッド・レコードよりデビュー。70年代フォーク・ソングを彷彿とさせながらも個性溢れるオリジナル楽曲と、センスの光るカバー曲を中心に構成された、ギターとピアノの弾き語りによる独特のステージングは、多くの優れた女性シンガー・ソング・ライター達が居並ぶシーンの中でも、異色の存在として話題となる。2019年11月配信EP作品「夢のあと」をリリース。現在は山崎まさよしやスキマスイッチ、秦基博などが所属する音楽事務所オフィス・ガスタに所属し、刺激的な音楽生活を送っている。

第Ⅰ部

 **シクーリ** (Bolivia民謡)

ボリビア伝承曲。アンデスの先住民アイマラ族の言葉でサンポーニャを意味する。サンポーニャは葎を束ねた笛で最古の笛と言われる。ヨーロッパではパン・フルートとして栄え、日本でも古くは正倉院に排簫という名前で確認されている。折れた葎がアンデスに吹き渡る風によって楽器になってゆくさまをあらわしている。

 **コンドルは飛んでゆく** (D.A. Robles)

アンデス地方の民謡“フォルクローレ”の代表的な曲は元々D.A.ロブレス作のオペレッタの作中の1曲である。サイモン&ガーファンクルによって世界的にヒットした。

 **野の花** 【vo.栗林聡子】(A.Yamahira)

東京で TV関係の仕事のかたわら音楽活動を始めたころの初期の曲。都会の夏の蜃気楼のような午後、路傍に咲く小さな花を見つけて望郷の念にかられた。転調を多用することにより、その不安定で移ろうところを表現している。

 **ブナの葉 ～どんぐり～** 【尺八：B.ヒューバナー アルバ：ひらやまよりこ】(A.Yamahira)

長年にわたるブナの森コンサートのテーマ曲といえる曲でもととはサンポーニャのための曲で歌詞もあるが、尺八やアルパ、パイオリンなど様々な楽器で演奏されるようになった。森でのコンサートでは、まるで一緒に歌うかのように鳥がやってきて東の間の共演となることも多い。

 **銀の月** (A.Yamahira)

「まなざし (CD)」のジャケットに使わせていただいている畠山政子氏の西馬音内盆踊りの油絵にインスパイアされて作曲。幻想的な夜に鈍く光る月に妖艶な踊り手の指が重なった…。

 **端縫いの夜** 【友情出演：阿部千賀子】(A.Yamahira)

エクアドルのサン・ファニートというリズム形式で編曲している。西馬音内の盆踊会館のオープン時に初演された。母から娘に、そしてそのまた娘へと…伝承がテーマです。

 **青の記憶** (A.Yamahira)

なつかしい古いラテン歌謡のような味わいを出したいがためにボリビアのリズム“タキラリ”のリズムを借りて。同じフォルクローレでもアンデスよりアマゾンに向かう亜熱帯地方で盛んなゆったりとしたラテンのノリのリズムである。

 **大黒舞い ～ドンパン節～** (秋田民謡)

ボリビアの“ティンク”という“村 vs 村”の両陣営が素手で殴りあうというちょっと乱暴なけんか祭りがあります。その時に士気を高めるために演奏されるのが同様にティンクと呼ばれる音楽です。その雰囲気で編曲しました。日本の民謡やお囃子などはアンデスのお祭りの歌と雰囲気^が似ているものが多くアンデスの楽器で演奏してもなぜかしっくりきます。同じモンゴロイドのDNAのせいかな。

 **『組曲：天空』より** (A.Yamahira)

あの夏に【vo.村上紗由里】
天空 (i)合流 confluenceAm【tp.福司存成】
(ii)祭りの始まり Start of the ignitionPercussion
(iii)悠久なる川のほとりで Omono River【バグパイプ：ウォレス】

大曲の花火をテーマにした組曲『天空』より。全5曲よりなるが「あの夏に」は故郷を離れてノスタルジアの中で脳裏に浮かぶふるさとの風景についての曲。タイトル曲の『天空』はさらに3部よりなり、和太鼓を含むさまざまな楽器で花火会場到着から花火大会が始まるまでを表現している。

 **深き瑠璃色** (A.Yamahira)

70年ぶりに発見されたクニマスについての曲。絶滅にまで追い込まれたのは、なんとかなるだろうという事勿れ主義や無関心への警鐘ととらえ、激しい曲調として表現した。

第Ⅱ部

 **『組曲：無上の庭園』より** (A.Yamahira)

黎明 ～ 大地のうた
～ 水の回廊【尺八：B.ヒューバナー アルバ：ひらやまよりこ】

大仙市高梨にある国の名勝に指定された旧池田氏庭園の石碑「無上の庭園」という言葉に感銘を受けて作曲。美しい平野、田畑、弘田の柵や六郷の清水などの自然財産すべてが「この上ない庭園」と捉え、ふるさとのゆたかさについて描写している。

 **鳥海山** 【尺八：B.ヒューバナー tp:福司存成】(A.Yamahira)

鳥海山麓は中島台にある“あがりこ大王”を目前にし圧倒的な自然の姿に畏怖を感じ作曲された。これ以後ここで音楽会を何度も開催している。もともとは管弦楽曲である。

 **遥かなるあなたへ** 【vo.村上紗由里】(A.Yamahira)

森の中にいると風に揺れる木々や鳥のさえずり、そして実際には鳴っていないだろうさまざまな音や声に包まれると感ずることがある。曲中の“あなた”は日本人が感ずる八百万の神といえるかも知れない。

 **オーロラ** (A.Yamahira)

初期の代表的な曲。“オーロラ”には気象のオーロラの他にギリシャ神話の曙の女神“オーロラ (アウローラ)”^がある。原点という意味にとらえ初心に帰るための歌である。前奏曲は奈良沙冬子のシンセサイザー作のソロ・パートである。

 **『縄文組曲：花紅』より** ハナハ クレナイ (A.Yamahira)

空の階段 - 降臨 -【バグパイプ：ウォレス】 ～ すべてはひとつに
～ 彼方から呼ぶ声【バグパイプ：ウォレス】
～ 空の階段Ⅱ ～ 泡 影【vo.近野淳一】
ほうよう

北秋田市鷹巣にある4つのストーンサークルを擁する縄文の遺跡“伊勢堂岱遺跡”のオフィシャルな楽曲製作を担当した際に全15曲から成る縄文組曲：花紅を作曲。縄文時代というのは再生可能なライフスタイルで1万年平和に続いたという途方もなく、優れた時代である。なにごととも在るがまま自然のそのままでじゅうぶんに美しい。

 **『三湖伝説』より** (A.Yamahira)

三湖伝説テーマ
～ ドラゴンのいた夏 ～【vo.村上紗由里】
～ まつりのばんげ ～
～ 水晶のさかな ～【vo.村上紗由里 tp.福司存成】

秋田県にある3つの大きな湖の伝説、八郎太郎や辰子姫の活躍するいにしえの伝説をテーマとして作曲。八郎太郎のうた、辰子のうた、全23曲からなる多くのアコースティック楽器による叙事詩といえる。日本最古の芝居小屋・康楽館にて初演の折りは、あゆかわのぼる氏による拡張高い美しい詩の朗読を進行役に演奏された。

 **風よ大地よ** (A.Yamahira)

『組曲：無上の庭園』の最終曲であり、近年の代表曲のひとつ。その歌詞には、男鹿半島も鳥海山も田沢湖も登場しないが私なりの“県民歌”といういを託している。